

バレーボール部一部昇格	①
体育会会長 あいさつ	①
福田 均志/永井 知佳 インタビュー	②
野球部 / 硬式テニス部	③
少林寺拳法部 / バスケットボール部	③
活動報告一覧	④
敬愛大学体育会活動報告会	④
救命講習会 / UNIVAS	④

敬大SPORTS Vol. 23

スポーツ

● 敬愛大学体育会発行 ● 〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21 TEL.043(251)6363 ● March 23,2025



一部昇格 バレーボール部



2011年創部以来の悲願、初の一部昇格を達成

2024年9月、10月にかけて開催された「2024年度 秋季関東大学女子2部バレーボールリーグ戦」。敬愛大学バレーボール部は、9勝2敗の成績を挙げ春季リーグ戦に続き準優勝を果たし、1部リーグとの入替戦に挑む機会を得た。10月27日に開催された入替戦。敬愛大学は、先行を許しながらもテュースに持ち込み、最後は全部員のパワーを込めた2球が相手の厳しい追い上げを打ち破った。その瞬間、2011年3月の創部から14年、2部昇格からは9年かけて、悲願の1部昇格を達成した。直前の2024年春季リーグを含め、これまで入替戦に6度挑みついても昇格を逃し、7度目の挑戦で手にした1部昇格。控えたメンバーを含み全ての部員がコート中央に駆け寄り、喜びを爆発させた。12月17日には、大学主催の1部昇格祝勝会が開かれ、福田均志監督と選手たちのこれまでの努力を振り返りながら快挙を祝った。今季から1部を舞台にして闘いに挑む敬愛大学バレーボール部、これからも熱い声援を送りたい。

会長あいさつ

確かな前進

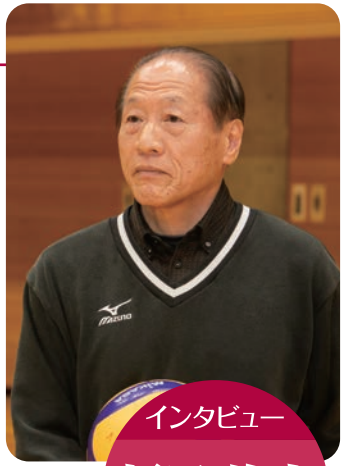


体育会会長
中山 幸夫
(学長)

WBC優勝に貢献した大谷翔平選手は、ドジャーズに移籍した昨年、54本塁打、59盗塁で前人未到の「50・50」を達成、ホームランと打点の両タイトルを併せてリーグMVPに輝き、チームもワールドシリーズ(WS)を制覇したことは、スポーツの世界を超えて多くの人々が拍手喝采を送るところとなりました。その活躍はまさに歴史的偉業であり、天賦の才能もさることながら、最善を尽くしてチームプレーに徹する姿勢と勝利へのあくなき探究心によるものであることは、誰もが認めるところだと思います。

本学体育会においても、昨年はバレーボール部が関東リーグの1部昇格を実現し、新たな歴史を築き上げてくれました。リーグ2部に昇格後、7回目の入替戦挑戦となりましたが、伝統校の国士舘大学を相手に「進」退の攻防となった試合はフルセットまでもつれる熱戦となり、最後は気持ちで押し切る劇的な逆転勝利となりました。体育会の歴史の中でも特筆すべき激闘、名勝負として語り継がれることでしょう。

いよいよ来年は大学開学 60周年、学園も創立100周年の節目を迎えます。学生スポーツは「大学の華」であり、体育会各部の果たす役割と影響力は益々大きなものとなります。来季における各部の「確かな前進」を大いに期待しています。



インタビュー
福田 均志
バレーボール部
監督

4年生の団結力と覚悟が 下級生の力を引き出してくれた

「勝てるチームは、大一番でもいつもの練習通り、普段の力を発揮できる。肩の力を抜いて、思い切り戦ってほしい」。2024年10月27日に行われた入替戦、試合前の円陣で選手たちへそう伝えてコートに送り出した福田均志監督。選手たちは監督のその言葉を胸に、自分を信じ、仲間を信じ、満員の応援席からのエネルギーに後押しされ得点を重ね、創部以来14年目の快挙となる1部昇格を成し遂げた。

「監督に就任して6年目で1部に引き上げることができました。使命感と責任感でバレーボール部を引っ張ってきて、目的を全て達成することに満足しています。2026年の学園創立100周年を迎える前に昇格できたことも嬉しいですね」と福田監督。

高校バレーの強豪である国學院大學栃木高女子バレーボール部を43年間率いて、2度の全国制覇を成し遂げた名将福田監督が敬愛大学バレーボール部監督に就任したのは2019年。敬愛大学バレーボール部を2部常勝チームに押し上げ、これまで6度の入替戦に臨んだ。

「勝つときには勝つ選手がいる。それが今回は4年生でした。4年生の団結力が下級生の力を引き出したのです。特に、大木春香選手と永井知佳選手は大学生最後の入替戦に賭ける執念と闘争心を見せてくれて、それに下級生が応えました」

2025年春季リーグからはトップチームが並ぶ1部リーグでの闘いが始まる。

「喜びは束の間、これから関東大学1部バ

レーの洗礼を受けることとなります。茨の道に足を踏み入れてしまったというのが本音です。苦しい心境ですが、結果はどうあれ1部春季リーグを楽しみたいと思います。この貴重な体験を基に選手達が一回り大きく成長してくれることを期待しています」

福田監督のバレーボール監督人生は今年で50年目を迎える。高校生のときにバレーボール部で全国大会を体験し、全国のトップ選手のレベルの高さを思い知らされた。そのことが教師の道を志すきっかけとなった。

「選手としては三流レベルの自分でしたが、指導者の道で一流になることを決意しました。師と仰ぐ名監督や生涯のライバルとなる監督たちと巡り会うことができて自分の目指していた監督像に近づけた気がします」

バレーボール部をはじめとする体育会系部活の躍進で、敬愛はスポーツが強い大学としての評価を得ている。教員になってスポーツの楽しさを子どもたちに伝えたいという学生も多く、大学もその希望を後押しする枠組みづくりを進めている。福田監督の取り組みが、結果として大学を動かすことになったともいえる。福田監督率いるバレーボール部の闘いはまだまだ続く、これからも敬愛大学バレーボール部の活躍に大いに注目したい。



バレーボール部 前主将
国際学部 国際学科4年

永井 知佳

卒業後は岡山シーガルズに所属 敬愛大学で初のSVリーグプレイヤーが誕生

2024年は春季リーグで主将を務め、続く秋季リーグでは4年生としてチームを牽引し1部昇格に導いた永井知佳選手。卒業後は、SVリーグ女子の岡山シーガルズに所属する永井選手に、4年間の振り返りや、プロバレーボール選手としての抱負を聞いた。

「入学してからずっと入替戦で負けてきました。秋季リーグは大学最後の大会で、自分がキャプテンでありエースなのだから、このチームを何としても勝たせようという強い気持ちで湧き上がってきました」と1部リーグへの昇格の道を振り返る永井選手。

「下級生が頑張ってくれてきてくれました。これで最後となる4年生のためにという思いがひしひしと伝わってきました。後輩たちは今後、1部から落ちてはいけないというプレッシャーを抱えるかもしれないけれど、1部を思い切り楽しんでほしいですね」と笑いながら語る永井選手だがこの4年間、何度もバレーをやめようと思ったのだと言った。

「エースなのにチームを勝たせることができなかった。責任を感じたし、勝たせなきゃという気持ちで空回りして逃げたいと思いました。でも逃げなかったのはチームメイトと監督がいたから。71歳の福田監督が1本1本ボール出しをしてくれるんで



す。私たちのために、命を削ってやってくれている。そういう人の思いに伝えたいし、裏切れないという気持ちで私をバレーに引き止めました」

永井選手はバレーボールの国内トップリーグであるSVリーグ女子の岡山シーガルズに内定が決まり、卒業を前にして12月から岡山シーガルズの練習に参加している。「岡山

シーガルズは、覚えるまで体に叩き込む反復練習を基本としていて、納得するまでに時間がかかる私に合っています。周りに遊ぶ場所がなくて、全ての誘惑を断ち切って朝から晩までバレーに集中できる環境も気に入っています」とここまででもストイックだ。ベンチサーバーのポジションに入ったデビュー戦ではサーブエースを決めた。内定選手の立場ながら、試合出場の間も得ている。

「監督に使ってもらっただけの選手ではなく、自分がチームを勝たせられるまでの存在になりたいですね。敬愛大学でバレーをしていたときは、大学でバレーは最後かなとも思っていました。でも今はバレー以外をすることは考えられません。将来、現役を引退したとしても指導者としてバレーに関わりたいです。福田監督の年齢までやれるかどうかは自信はないけど、でも一生バレーに関わりたいと今はそう思っています」と語る永井選手。力強く着実に新たなステージを歩み始めている。

硬式テニス部

関東学生テニスリーグ本戦出場
千葉県学生テニストーナメント準優勝部活動で本気で取り組むからこそ味わえるスポーツの醍醐味

硬式テニス部 主将
経済学部
経営学科3年

森 仁人



2024年は、関東学生テニスリーグ団体戦の予選を突破、本戦への出場を果たし32大学中14位の結果を残した敬愛大学硬式テニス部。
「2023年に歴代初めて関東学生テニスリーグの予選を突破しました。そのときは6位までいけて、今年は14位。そこは残念ですが、予選を突破して本戦出場できたことが自体に価値あり、テニス部は今、ノリに乗っているといっても言い過ぎではないと思います」と森主将。
個人としての成績は千葉県学生テニストーナメント大会シングルスでベスト4、神保選手と組んだダブルスで準優勝を決めた。
「2023年も準優勝だったので、2024年は優勝を狙っていました。だから嬉しい気持ち半分と、悔しい気持ち半分です」

が入部することも決まっている。
「他大学ではテニス部が廃部になっているところも少なくありません。そんななか、敬愛のテニス部は部員が確保できていて成績も右肩上がり。大学も力を入れてくれているので練習環境も整っています。テニス経験者も未経験者も興味があればぜひ一度体験練習に来てほしい」と森主将は、長期休みを利用してアメリカに游学するための準備を進めている。
「テニスの修行も兼ねて異文化に触れてきます。英語に力を入れて勉強しています。TOEICは735点、オンラインレッスンも活用しています。将来は海外チームのサポートなどビジネスでスポーツに貢献していきたいですね」と夢を語る森主将の目の前には大きな世界が広がっている。

野球部

悲願の1部リーグ初優勝
そして関東大会出場を目指して
チーム全員で考えたスローガンは
レボリューション～快進撃～

野球部 主将
経済学部
経済学科3年

柏木 勇人



2024年度千葉県大学野球リーグ戦で、春季リーグ4位。秋季リーグでは3位決定戦に臨み、城西国際大学に敗れ春と同じく4位となった野球部。春秋を通じて1部を守り抜いた。
「先制しても逆転されて勝ち切れずに落ちた試合がいくつもあったので、そこが反省点です」と2024年10月から主将を務める柏木選手。とはいえ、手応えもあった1年だった。
「フライドスチールなど相手の意表を突く戦術を練習してきました。実戦でもそれが機能して、敬愛大は何をしてくるかわからないという印象を与えていることができたと思います」
部員と共に考え、今季のチームスローガンは「レボリューション～快進撃～」に設定した。
「ピッチャーは走り込み、野手は1日1000球打ち込みなど今までにない練習メニューに取り

組んでいます。目指すは創部以来の悲願である1部リーグ優勝です。スローガンには、敬愛大学野球部に革命を起こして、今までは違った野球部を見せたいという思いを込めました」
そう語る柏木主将は文武両道を実践。優秀な成績を修め、かつ課外活動等で学園の発展に貢献した者として長戸路記念奨学金が贈られた。
「拓殖紅陵高校から敬愛大学に入学したのは、1部リーグの高いレベルで野球がしたかったことはもちろんですが、将来は教員になりたいと考えているので教員免許が取得できることも大きな理由です。僕のモットーは凡事徹底で、当たり前のことを当たり前にやること。野球も勉強も悔いのないようにしっかりとやっつけていきたいですね」と柏木主将は瞳を輝かせる。

バスケットボール部

関東大学選手権大会の試合に出場できたことが奇跡「手伝おうか?」と言ってくれた上級生と同学年の仲間へ感謝

バスケットボール部 主将
教育学部
こども教育学科 2年

渡辺 良介



昨年4月に行われた関東大学バスケットボール選手権大会は、敬愛大学46点、対する東京理科大学が点差を引き離して勝利した。しかし、この試合こそが2024年のなかで最も印象深い試合なのだと言った渡辺主将。
「入学してバスケット部に入部したとき、部員が少ないこともあってほぼ活動していない状態で、いっそ廃部にしようという話も出ていました」
バスケット部を存続させたいと思った渡辺主将は、残った部員と練習を再開したものの、試合に出るにはハードルがいくつもあった。関東大学大会に出場するためには、チーム内に審判資格とコーチ資格を保持する

者が置く必要があるがその両方がいない。渡辺主将が急遽勉強会に参加して何とか両方の資格を取得。ところが今度は試合に出場するための5人が集まらないう。
「バスケット部の苦境と奮闘を知った上級生や同級生が『手伝おうか?』と声をかけてくれて試合に必要なギリギリ5名の選手がなんとか集まりました。こちらは交代の選手がいなくて5名全員がフル出場で強豪の東京理科大学相手に46点取ったのですから、大きな一歩です」と胸を張る渡辺主将。両親が小学校教諭で、自身も小学校教諭になりたいたいという夢を叶えるために敬愛大学に入学した。バスケットボール部の完全復活と教員という2つの目標に向かって邁進中だ。

少林寺拳法部

拳禅一如の精神で身体と心を日々鍛錬して並みいる強豪校を圧倒するような迫力と団結力をつけていきたい

少林寺拳法部 副主将
経済学部
経済学科1年

大木 虹野



「少林寺拳法千葉県大会で寺田先輩が2位になったのが一番大きな成果です。僕自身は千葉県大会、全日本学生、関東学生新人大会に出場しましたが、いずれも予選敗退。高校のときは比べものにならないレベルの高さに圧倒されてしまった感じでした」と大木副主将は、2024年を振り返る。
「強豪と称される大学は王者の風格というのでしょうか、威圧感が半端ないんです。強くなるためには練習と経験を積んで自信をつけていくしかないですね。それから高校は引率してくれる先生がいるのですが、大学だと大会に出場する手続きや移動や宿泊の手配も

自分です。慣れずに手間取ってしまったのも影響しました。後輩には不安な思いをさせないように僕がしっかりとチームを引っ張っていく覚悟です」
そう語る大木副主将の黒帯には、拳禅一如の文字が刺繍で刻まれている。拳は体、禅は心、一如は一体であることを表す。体と心は切り離すことが出来ず、一体であるという意味だ。
「少林寺の極意はそこにあると思っています。心が伴っていないれば体を鍛えても暴力になっってしまう、体を鍛えずに優りすぎるだけでは無力です」と大木副主将。少林寺拳法部では未経験者も大歓迎なので、武道に興味がある人は武道場に見学に行ってみてほしいだろう。

2024年度 敬愛大学体育会所属クラブ活動報告(大会結果等)一覧

2024年12月17日現在

バレーボール部

- ▶2024年度 春季関東大学女子2部バレーボールリーグ戦(4月13日~5月25日) 準優勝(10勝1敗)
 - 【個人賞】
 - 敢闘選手賞 永井 知佳(国際学部4年)
 - サーブレシーブ賞 菊地 さくら(国際学部2年)
 - 【1部・2部入替戦】
 - 敬愛大学 0-3 嘉悦大学○ (20-25, 20-25, 17-25) 2部残留
- ▶第43回東日本バレーボール大学選手権大会 女子花巻大会(6月19日~6月20日)
 - 【予選グループ戦】
 - 敬愛大学 0-2 大東文化大学○ (24-26, 26-28)
 - 敬愛大学 2-0 東北公益文科大学● (25-13, 25-16)
 - 【決勝トーナメント】
 - 敬愛大学 0-2 日本体育大学○ (25-13, 20-25)
- ▶2024年度 秋季関東大学女子2部バレーボールリーグ戦(9月7日~10月27日) 準優勝(9勝2敗)
 - 【個人賞】
 - 敢闘選手賞 大木 春香(国際学部4年)
 - サーブレシーブ賞 菊地 さくら(国際学部2年)、大木 春香(国際学部4年)
 - 【1部・2部入替戦】
 - 敬愛大学 3-2 国士舘大学● (25-22, 22-25, 25-17, 22-25, 17-15) 1部昇格!
- ▶第71回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会(11月26日~12月1日)
 - 【1回戦】●敬愛大学 2-3 福岡大学○(25-22, 22-25, 25-17, 22-25, 17-15)

野球部

- ▶2024年度千葉県大学野球春季リーグ戦<1部> (4月~5月 長生の森公園野球場他) 7勝6敗 勝点3 4位
- ▶2024年度千葉県大学野球新人戦 (6月 長生の森公園野球場) 対 国際武道大学 初戦敗退
- ▶2024年度千葉県大学野球秋季リーグ戦<1部> (9月~10月 長生の森公園野球場他) 6勝7敗 勝点2 4位
- ▶2024年度千葉県大学野球秋季リーグ戦<1部>3位決定戦 対 城西国際大学 敗戦

少林寺拳法部

- ▶第61回少林寺拳法関東学生大会(5月4日)日本武道館 男子有段の部 寺田ヘンリー隼人:予選敗退
- ▶2024年少林寺拳法千葉県大会(6月30日)船橋アリーナ 単独有段の部 寺田ヘンリー隼人:第2位 有段の部 大木 虹野、始関 暉:予選敗退
- ▶第20回少林寺拳法関東学生新人大会(9月28日)エスフォルタアリーナ八王子 男子有段の部 寺田ヘンリー隼人、大木 虹野、始関 暉:予選敗退

- ▶第58回少林寺拳法全日本学生大会(11月3日、4日) 東京大学駒場キャンパス 日本武道館 単独有段の部 大木 虹野:予算敗退

硬式テニス部

- ◆男子・女子成績
- ▶千葉県学生テニス対抗戦<団体戦>(5月~7月 各大学テニスコート)
 - 【男子2部リーグ】※3部リーグ制(1リーグ当たり4大学構成)
 - 1回戦 対 日本大学理工学部 7-2 勝利
 - 2回戦 対 明海大学 5-4 勝利
 - 3回戦 対 順天堂大学 4-5 敗退 2勝1敗 入替戦出場決定
 - 入替戦 対 東洋学園大学 3-6 敗退 2部準優勝(6位 12大学中)
- ▶関東学生テニスリーグ<団体戦>(8~9月 各大学テニスコート)
 - 【男子7部リーグ(予選)】※7部リーグ制
 - 1回戦 対 山梨大学 6-3 勝利
 - 2回戦 対 明星大学 5-4 勝利
 - 3回戦 対 茨城大学 7-2 勝利 3勝0敗 予選リーグ突破
 - 【男子7部リーグ(本戦)】※2年連続出場
 - 1回戦 対 明海大学 4-5 敗退
 - 順位戦 対 東京都市大学 3-6 敗退
 - 順位戦 対 麗澤大学 不戦勝
 - 順位戦 対 武蔵大学 4-5 敗退 7部リーグ14位(32大学中)
 - 【女子5部リーグ(予選)】※5部リーグ制 本学は人数の関係上、連合で出場
 - 1回戦 対 東京都市大学 1-6 敗退(単複敗退)
 - 2回戦 対 独協大学 2-5 敗退(単敗退、複勝利)
 - 3回戦 対 創価大学 6-1 勝利(単複勝利)
 - 4回戦 対 東京学芸大学 4-3 勝利(単敗退、複勝利) 2勝2敗 予選リーグ敗退(34大学・1連合)
- ▶千葉県学生テニストーナメント大会<個人戦>(10月~ 各大学テニスコート)
 - 男子シングルス:ベスト4 森 仁人 本戦出場他2名
 - 男子ダブルス:準優勝 森・神保ペア
 - 女子ダブルス:優勝 間中・内木ペア(東洋学園大学と連合)

バスケットボール部

- ▶第73回関東大学バスケットボール選手権大会 4月18日 杏林大学 ○東京理科大学101-46敬愛大学●
- ▶第64回関東大学バスケットボール新人戦 5月18日 千葉商科大学市川キャンパス ●武蔵大学61-65敬愛大学○ 5月19日 千葉工業大学新習志野キャンパス ○日本ウェルネススポーツ大学118-42敬愛大学●
- ▶第100回関東大学バスケットボールリーグ戦 5部(8/30、9/2、9/3、9/15、9/16) 1勝4敗

参考

- 「一般社団法人大学スポーツ協会」 UNIVAS (ユニバス) | UNIVAS (ユニバス)
- 「UNIVAS SSC」 ガイドライン(SSC制度) | 安全な環境をつくる UNIVAS (ユニバス)
- 「UNIVAS SSC 第29号会員として敬愛大学を認証」 UNIVAS SSC第29号会員として、敬愛大学(千葉県)を認証 | UNIVAS (ユニバス)

本学では引き続き、運動部活動に関わる学生及び教職員の安全安心に対する意識を向上させ、本学体育会を中心に安全安心環境の整備を推進し、学生アスリートを支援していきます。

「UNIVAS SSC (安全安心認証)」を取得しました

敬愛大学は、2024年10月1日一般社団法人大学スポーツ協会(以下、UNIVAS)が提供する日本初の安全安心認証「UNIVAS Safety and Security Certification」(以下、UNIVAS SSC)の第29号会員として認定されました。

UNIVAS SSCは、安全・安心な大学スポーツ活動の環境を整備するため、UNIVASとMS&ADインシニアランスグループホールディングス株式会社が連携して構築した日本初の安全安心認証制度です。

UNIVASが策定した定の基準を達成するとUNIVAS SSCが付与されます。

また、UNIVAS SSCを取得した大学・競技団体には、UNIVAS SSC補償制度(保険)が自動付帯され、スポーツを行う上で環境面・補償面から安全安心な環境の構築につながります。



敬愛大学体育会 活動報告会開催

令和6年12月17日(火)、敬愛大学体育会活動報告会並びに祝勝会が開催されました。

まず始めに体育会副会長の成松副学長から開会の挨拶がありました。挨拶の中でバレーボール部の関東リーグ1部昇格へのお祝いの言葉と1部昇格までの道のりの説明がありました。2011年、東日本大震災の年にわずか7人のメンバーで発足したバレーボール部。12部からのスタートでしたが2015年には2部昇格と破竹の勢いで成績を上げてきましたが、その後3歩のところでリーグ入替戦で敗れ7回目の挑戦。2024年秋季リーグ入替戦で念願の1部リーグに昇格、祝勝会ができることの喜びを語られました。

続いてバレーボール部の福田監督から祝勝会開催のお礼とスタッフや選手、関わっていただいた全ての方に労いのお言葉がありました。監督は敬愛大学100周年記念行事の一環として今回1部リーグ昇格を果たしたという目標を選手たちと共有し、そして実現できたこと喜び、今後の1部定着への試練に向かい努力する旨のお話で結ばれました。

その後、体育会幹事の塚本先生乾杯のご発声で祝勝会となりました。なごやかな歓談の中で、各部からの活動報告があり、最後に体育会幹事である学生部長の佐々木先生より総評が述べられ各部来年度も更なる成績を上げられるよう努力をしてほしいというお言葉で締められ、2024年度の活動報告会・祝賀会は閉会しました。



救命講習会

本学では、スポーツ系クラブ・ボランティア系クラブの部員に対し、活動中に心停止など緊急事態が発生した際に適切な救命措置を行えるよう、救命講習会の受講を義務付けています。

2024年7月23日(火)に日本赤十字社千葉県支部救急法指導員である林泰子先生(学生相談室相談員)による「救命講習会」を開催し、12団体から29名の学生が参加しました。

講習会では、3人1組で次救命措置である心肺蘇生(CPR)とAEDの実技を交代で行いました。全員が役割を交代しながら実技を体験することで、救命救命に対する意識を具体的に高めることができました。